

中国環境問題研究会編

『中国環境ハンドブック 2005  
- 2006年版』

蒼蒼社 2004年 437ページ

の が み ひ ろ き  
野 上 裕 生

本書は中国の環境問題について中国と環境問題の専門家やNGO関係者が基礎的データや資料を提示し、問題点をわかりやすく解説した有用なハンドブックである。本書は大きく「特集」編と「データ・資料」編からなる。「特集」編は第Ⅰ部「日本の中国環境問題研究の回顧と展望」、第Ⅱ部「中国環境問題の現在」、第Ⅲ部「環境被害救済への道のり」で構成されている。

「特集」編の第Ⅰ部では宇井純、小島麗逸、原田正純、野村好弘、植田和弘、橋本芳一、井村秀文という公害や中国研究の専門家が環境問題をめぐる日本と中国の研究交流の記録を報告している。特に「民主的選挙制のないところ」(小島麗逸, 32ページ)である中国での環境問題や公害被害の実態解明の難しさ、公害防止装置や技術などビジネスに結びつく研究交流が重視されて労災や職業病、公害被害者の実態に関する具体的な情報公開が進まないことが印象に残った(原田正純, 41~42ページ)。また植田和弘は「計画経済」も「市場経済」も中国の環境負荷を増加させた可能性があることを強調しており(54~57ページ)、評者も実態把握の重要性を感じた。

「特集」の第Ⅱ部は中国の環境をめぐると重要な問題をとり上げる。「1. 中国北部の水危機」は中国の水問題の特徴は地域間アンバランスが大きいこと、雨の少ない北部に都市と華北穀倉地帯があるために水の不足が飲み水や生活用水だけでなく食糧問題にも影響する可能性を指摘している。「2. 石炭と大気汚染問題」は中国の大気汚染対策が主要なエネルギー源である石炭の流通の実態を考慮せずに実行されていることから、石炭消費の実態を考慮して石炭から出

る汚染を削減する方法の普及を目的にした有効な対策を強調している。「3. 廃棄物・リサイクル」は廉価な人件費で国際的なリサイクル拠点になっている中国国内でリサイクル資源の回収が進んでいない現状、有害廃棄物や医療廃棄物の問題を契機にしたごみの減量化や資源化の取組みが解説されている。「4. 環境ビジネス」では下水など環境インフラ建設分野の規制緩和と市場開放の動向を紹介し、環境ビジネスに関する法制度や税金問題を解説している。「5. 森林環境をめぐると政策の動向」は造林・森林保護の方針を継承しながら「中央の政策的指導によって森林の過小状況を改善する」(125ページ)という特徴を持つ森林環境政策の上意下達政策実施システムの問題点などを解説している。「6. 第九次および第十次五カ年計画期間における環境保護の取組み」は各々の計画の特徴や重点分野を解説している。

第Ⅲ部は環境汚染紛争の歴史的動向である。特に重要なのはNGOによる環境被害救済の取組みや中国政法大学公害被害者法律援助センター(略称CLAPV)の活動の紹介である。民間で公害に関する法律相談を公開・全国規模で行う常設サービス機関として唯一のものであるCLAPVの訴訟支援によって公害被害に関する紛争が解決したケースがある一方で、被害者の主張が認められずに困難に直面することも多いことが報告されている。しかしCLAPVの活動は「人々が声を上げられないために、環境法が適用・執行されず、人々に環境法が認知されないため被害者の救済に役立たない」(160~161ページ)という悪循環を断ち切るうえで重要な貢献をしたことに評者は深い感銘を受けた。

後半の「データ・資料」編では第Ⅰ部「公式資料(公報・法律・統計・国家環境保護「十五」計画)」、第Ⅱ部「NGOと国際協力」という構成で基礎的事項が包括的に解説されている。

環境研究では地域の具体的な状況の正確な理解が最も重要である。本書は中国の資料やデータをわかりやすく解説してあり、中国やアジアの環境問題に関心のある人には是非読んで欲しい書物である。

(アジア経済研究所新領域研究センター)